

コロナと罪

まだまだ残暑厳しい時が続きます。コロナの勢いも止まりません。

お盆休みより、今回の4連休は行楽地の人出が回復しているようです。コロナは今年3月から始まり、いつしか慣れてしまい無防備のために感染拡大を危惧します。

外部的には問題以上に、水面下の内部的な目につかない所において大きなダメージが表面化しています。

小さいのちのドア代表の永原郁子さんはだれにも相談ができず、子どもを宿しているのではないかと心配して、追い詰められた女性のための相談窓口になっておられます。毎月20~30人の新規の相談でしたが、コロナ感染が広がり始めた今年の3月ごろから増え続け3月は46人、4月は89人、5月は120人、6月はなんと150人と普通の5倍強になり、それも10代が8割になりました。(いのちのことは10月号より)

愛の反対は罪です。間違った自己愛は望まない子どもを宿して苦しむ女性を通して現れています。

罪とコロナは類似性があります。第一はどちらも目に見えません。第二は世界に広がるほどの感染力があります。第三は人種、性別、階級を問わず無差別に襲ってきます。しかし、コロナはやがてワクチンや治療薬が開発されて癒されるが、罪を癒す薬はなく、死も罪を消すことはできません。永遠にその罪と共に存在しなければなりません。神は愛です。このような、憐れな私たちを見棄て給わず心配してください。愛とは本能的な自分の欲望ではありません。愛とは友の為に自分の命を捨てることです。真の愛はイエス・キリストの十字架の上に燦然として輝いています。永遠に取り除かれない私たちの罪をイエス様は取り去ってください、神の前に義とされ、神の前に裁かれる者でなく、神の子として、神の愛と祝福を受けるものと変えて下さいます。